

竹隠

竹隠は、比較的に新しい茶室建築の一例です。竹隠は、伝統的な茶室の建築を専門とした有名な京都の大工、木村清兵衛の最後の代である四代目木村清兵衛（1900～1970）によって建てられたと言われているある別荘の庭園にあった茶室のレプリカです。竹隠という名前は、丈夫で成長が早く、冬の寒さに強いことから縁起の良い植物としてみなされている竹に由来しています。

梅隠や松隠に表される古い様式とは異なり、竹隠茶室は 1 間のみで構成されています。この 4 畳半の部屋は、茶会に理想的なサイズであると考えられています。その建築は十分な自然光を取り入れ、内部を比較的明るくし、アルコーブの一種である床の間には、リュートの一種である琵琶を展示していた、琵琶床と呼ばれる専用のスペースが設けられています。

竹隠では、春（3 月～5 月）と秋（10 月～11 月）の日曜日に、初心者向けの茶会が行われています。参加には予約は不要です。庭園のチケット窓口または松花堂美術館事務局までお問い合わせください。